

アジア研究教育ユニット（世界展開力・特別経費）平成 28 年度教育研究報告書

事業課題名	現代におけるイスラームとキリスト教の展開に関する国際学生ワークショップの開催
代表者名	東長靖（大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・教授）
事業概要 (600 字程度)	<p>本事業においては、現代のイスラームとキリスト教に関するさまざまな問題がどのような展開を見せているかを議論するための国際学生ワークショップの開催を企図する。ワークショップは韓国の釜山外国語大学において開催される。本ワークショップでは、京都大学の大学院生 2 名が研究発表を行い、これを釜山外国語大学の教員 3 名および京都大学の教員 1 名が指導する。また、両大学の教員自身も研究発表を行い、モデルを学生に示す。これによって、学生の国際会議でのプレゼンテーション能力を高めることを目的とする。また、学生には研究発表までにフル・ペーパーの作成を義務付け、英語論文の書き方も指導する。</p>
成果の概要 (800 字程度)	<p>本事業は、大学院生の国際発信のためのプレゼンテーション能力向上を目指して、海外（韓国）において国際ワークショップを開催し、大学院生および引率教員が英語による研究発表を行うものである。</p> <p>大学院アジア・アフリカ地域研究研究科グローバル地域研究専攻は、本事業の提携先である釜山外国語大学と、2009 年度より継続的に研究交流を行ってきた。今回は、この双方向の学術交流を元に、さらに大きな「地中海研究アジア連合」第 1 回大会の機会を利用し、本事業を実施した。本大会の全体テーマは、“Asian Perspectives of Mediterranean Studies: Exchange and Dialogue” と題された。この「地中海研究アジア連合」は、京都大学と釜山外国語大学の継続的な学術交流を基礎に、さらに中国・北京大学、台湾・国立台湾大学、トルコ・アクデニズ大学が国際連携を図るものであり、2016 年 6 月に結成されたものである。</p> <p>本事業は、この枠組みを利用する形で、3 月 11 日に釜山外国語大学における上記大会において、本研究科の PD1 名（澤井真）、博士課程学生 2 名（池端露子、山崎暁）が発表を行い、これに対して、発表内容・技術の両面から引率教員の東長靖および二ツ山達朗が指導を行った。（Makoto Sawai, “Ontological Emanation in Ibn ‘Arabī’s School,” Fukiko Ikehata, “Jordan’s Dialogue among World Religions: As the Birth Place of Christianity and Guardian of the Third Islamic Holy City,” Satoru Yamazaki, “Syrian Civil War and Ethnic Revival among Nu şayrīs Alawīs in Turkey”）また、引率教員の一人（二ツ山達朗客員准教授）も発表を行い（Tatsuro Futatsuyama, “Symbolism of the Olive in the Mediterranean Civilization and Modern Global Market”）、国際会議における学術発表の範を示した。</p> <p>いずれも、事前にフル・ペーパーの執筆を行い、それらはプロシーディングズの形でまとめられた（<i>Asian Perspectives of Mediterranean Studies: Exchange and Dialogue</i>, Busan: Institute for Mediterranean Studies, Busan University of Foreign Studies, 2016）。</p>

--	--